図109　遺跡の位置
５万分１地形図「弥彦」

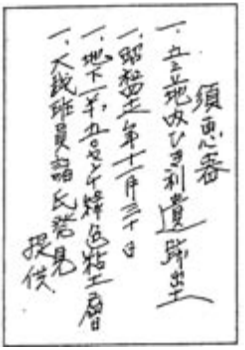

図110　谷川氏の樋切遺跡の遺物採集記録

樋切遺跡　西蒲区五之上

樋切遺跡は、五之上集落の南端部、標高約二・一メートルの微高地に立地している。遺跡の範囲は東西約一五〇メートル、南北約五〇メートルと推定され、現在は宅地や水田・畑になっている。かつて水田中の微高地にあった遺跡の多くは、圃場整備などで平らな水田に削られているが、樋切遺跡は集落の南端部にあるため、往時の景観が比較的残っている遺跡である。

昭和十三（一九三八）年、五之上集落南端で個人宅を建造した際、手伝いで穴を掘っていた地元の谷川忠寿美氏が、地下二メートルから土器片などを発見し、遺跡と分かった。谷川氏は、以後、五之上周辺で耕地整理や圃場整備などにより出土した遺物を、取捨選択せず収集し、潟東村（現、西蒲区）地域の遺跡調査の先駆者となった。谷川氏の収集遺物と採集記録によって、潟東村に所在する遺跡は平安時代と中世の複合遺跡であり、すべて自然堤防の微高地または旧微高地に立地していることが分かっている。

谷川氏が昭和十三年以降、樋切遺跡から採集した遺物は、深さ二〇センチメートルの平箱で一〇箱ほどである。これらは、前記の宅造のほか、集落地先の用排水路や圃場整備の工事で出土した。遺物の時期は九世紀（平安時代）と中世の二時期である。平安時代の遺物には土師器の小甕・長胴甕・黒色埦・筒形土器、須恵器の坏・坏蓋・甕・小壺などがある。中世の遺物には珠洲焼の甕・擂鉢、越前焼系の甕などのほか、黒色瓦質の焼き物の風炉がある。風炉は、茶道具の一つで、茶釜を架ける炉に使われる。これらの遺物から、平安時代には比較的短期間の集落で、中世にも集落地になった可能性が高い。

図111　樋切遺跡　南東から

樋切遺跡は昭和四十八年に潟東村の史跡に指定され、新潟市との合併により新潟市指定史跡に継承された。また、谷川氏が採集した樋切遺跡を含む遺物は、同氏が他界した翌年の平成十年、一括して潟東村教育委員会に寄贈された。潟東村教育委員会は、受贈遺物の整理を関雅之氏に依頼し、平成十二年に『新潟県潟東村所蔵の考古資料整理報告～谷川忠寿美氏収集資料の調査記録～』が刊行された。